

# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	独立行政法人国立病院機構 菊池病院	階数	地上3F
建設地	熊本県合志市福原208番1.1391番1	構造	RC造
用途地域	指定地域なし	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年7月 予定	評価の実施日	2013年12月4日
敷地面積	104,683 m <sup>2</sup>	作成者	㈱梓設計 九州支社
建築面積	20,688 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,472 m <sup>2</sup>	確認者	



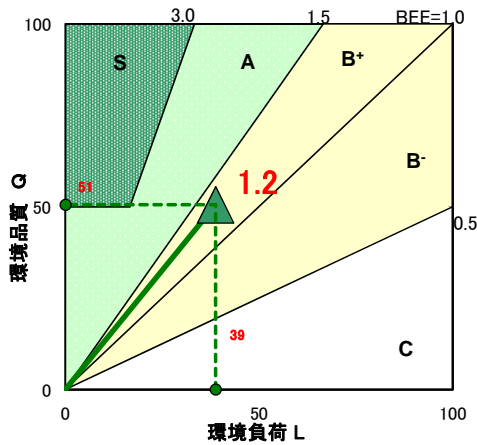
## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



#### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



排出率

57%

## 2 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



評価点

84

評価点

#### ■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

97.8

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

87.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

70.0

【重点事項4】 循環型社会の実現

69.0

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	👍👍👍👍👍
80点以上100点未満	👍👍👍👍
60点以上80点未満	👍👍👍
40点以上60点未満	👍👍
40点未満	👍

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	独立行政法人国立病院機構 菊池病院	階数	地上3F
建設地	熊本県合志市福原208番1.1391番1	構造	RC造
用途地域	指定地域なし	平均居住人員	200 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年7月 予定	評価の実施日	2013年12月4日
敷地面積	104,683 m <sup>2</sup>	作成者	㈱梓設計 九州支社
建築面積	20,688 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,472 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 400% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 57%

③上記+②以外の 57%

④上記+ 57%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 3.2

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.4

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.7

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.6

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 3.8

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 84

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 98

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 88

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 70

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 69

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

独立行政法人国立病院機構 菊池病院 外来管理治療、デイケア棟

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.6</b>	0.15	-	-			<b>2.6</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
2 騒音騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>2.2</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		<b>1.0</b>	0.40	-	-			
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.7</b>	0.35	-	-			<b>2.7</b>
2.1 室温制御		<b>3.3</b>	0.50	-	-			
1 室温		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
4 ゾーン別制御性	負荷に応じた空調ゾーニング制御を行う。	<b>4.0</b>	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 特殊空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.9</b>	0.25	-	-			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用		<b>2.2</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		<b>1.0</b>	0.60	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備	光庭を計画している。	<b>4.0</b>	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 遮光器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	ブラインドに庇を組み合わせてグレアを抑制	<b>4.0</b>	1.00	-	-			
3 熱り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		<b>2.0</b>	0.15	-	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25	-	-			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆材を70%以上採用	<b>4.0</b>	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2 自然換気性能		-	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
4 給気経路		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙	<b>5.0</b>	1.00	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.7</b>	0.40	-	-			<b>2.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		-	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		<b>1.0</b>	1.00	-	-			
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計において、取組みが標準以上である。	<b>4.0</b>	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能の確保において、取組みが標準以上である。	<b>4.0</b>	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.31	-	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	<b>4.0</b>	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>2.8</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	主要内装仕上げ材の更新必要間隔が11年以上~20年未満	<b>4.0</b>	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			4.4	0.19	-	-
1	空調・換気設備	評価する取組みが2つ該当	5.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	評価する取組みが2つ該当	5.0	0.20	-	-
3	電気設備	評価する取組みが2つ該当	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	評価する取組みが2つ該当	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	共用部の階高が3.9m以上確保	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1以上、0.3未満	4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性・アメニティへの配慮に関して比較的多くの取組みが行わ	4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率=6.8%	3.1	0.30	-	3.1
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然採光システムが計画されている。	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR値56.2%	5.0	0.30	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=56.2%	5.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	2.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加え、省水型機器を使用している。	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.63	-	2.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.8
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率57%	4.7	0.33	-	4.7
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		評価する取組み表の評価ポイントの合計値が15ポイント	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	評価する取組み表のポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		-	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する取組み表のポイントの合計値が4ポイント	5.0	0.70	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・敷地内の空地を残して自然環境を生かした居住性を確保します。
- ・自然採光と換気に配慮した院内環境を確保します。
- ・設備ゾーンニングを行い、コスト縮減につながる計画とします。

### Q1 室内環境

- ・病室からの景観に配慮し、敷地内の木々の緑が見える環境とします。
- ・病室や主たる居室には複層ガラスを採用し、エネルギー負荷の低減を計ります。
- ・光庭に面しデイルームの天井を高くし、ハイサイドライトを設け開放感のある環境とします。

### Q2 サービス性能

- ・屋根や設備機器の維持管理に配慮した計画とします。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地の原型レベルをできるだけ残し、段差をスロープとし移動のしやすさに配慮します。
- ・既存樹木をできるだけ残し、自然環境に配慮した計画とします。

### LR1 エネルギー

- ・光庭による自然採光や換気などエネルギーの有効利用を積極的に計ります。
- ・高効率な設備機器を採用します。

### LR2 資源・マテリアル

- ・既存建物の解体におけるリサイクル化や場内発生土の有効活用を図ると共に、再生可能資源の積極的採用を計ります。

### LR3 敷地外環境

- ・敷地外への雨水流出の抑制を計ります。

### その他

特に無し

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

独立行政法人国立病院機構 菊池病院 外来管理治療、デイケア棟

■評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				97.8	0.40	39.12
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.1	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				87.5	0.20	17.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69	0.20	13.80
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数